

ラナンキュラスの茎頂培養法および増殖培養法を確立した。茎頂培養法については、培地に添加する枯物ホルモン組成、培養時の雑菌生育抑制、水浸状化の回避を検討した。増殖培養法については、培地に添加する植物ホルモン組成、培養温度条件を検討した。得られた結果は次の通りであった。

1. 茎頂培養条件は、茎頂摘出前の材料を70%エタノールで30秒、0.5%次亜塩素酸ナトリウム溶液で15分浸漬殺菌し、植物ホルモンとしてBA0.01mg/?およびNAA0.01mg/l、抗生物質セフトキシムナトリウム600mg/l、PVPまたはカザミノ酸500mg/l、Gelrite 5g/lを添加し、pH5.6に調整したMS培地を用いることにより、培養時の雑菌生育抑制および再生植物体の水浸状化を回避でき、70~80%の高い再生率が得られた。
2. 増殖培養に用いる培地には、植物ホルモンとしてBA0.05mg/lおよびNAA0.01mg/lを添加し、培養温度条件は、明期15°C、暗期10°Cに設定するのが最も適当であった。
3. 上記条件による増殖効率は、約1年で少なくとも1000~3000倍であると考えられた。

キーワード：ラナンキュラス、茎頂培養法、ウイルスフリー化、抗生物質、水浸状化、増殖培養法